

みんな で 生きる

No.450
2017 10・11

特集● JOCS の切手運動ボランティア
活動を紹介します

✝
mlc
JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。
公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

1972年4月25日第三種郵便物認可 通巻450号
2017年10月10日(隔月10日発行)

ケニア・シロアムの園に通うサイラス君と
お母さん (撮影 事務局・松浦由佳子)



風が吹いている。濃い緑の葉を光りてみだし、ひまわりの花を金色に染め、子どもたちの肌を黒くぬりかえ、笑い声を充たした季節をそっと吹きはらう。
 風が吹いている。秋桜の花をやさしく揺らし、野や山を実りで充たし、やがて木の葉を美しく染めて、子どもたちの背を伸ばす季節にそっと置き換える。
 自然は、世界は美しい。私たちがその美しい自然である。
 しかし時として自然は、激しい雨を降らせ、厳しく風を送り、嵐をとおりすぎさせる。

命の招きに答えたい

…… 会長 畑野 研太郎

押し流したり激しく揺すぶったり、暗闇に閉ざしてしまおう。
 私たちも自然の、世界の中で、そのような激しい憎しみと苦しみの一部である。

どうして美しさの中でだけ生きていけないのか。どうして歓びだけを呼吸して生きていけないのか。

エデンの園とはどんなところだったのか。いつ私たちは、そこを離れてしまったのか。最初に、効率的に生きることを求めて他の命をのみ込んでしまった時に、私たちは楽園を離れてしまったのだろうか。自己中心で、他のものを顧みない道へと歩み出してしまったのだろうか。生きるために、他の命をかえりみることでできない宿命を背負ってしまったのだろうか。

しかし思い出したい。命は、他の命をのみ込む、その出来事の前から始まっていたことを。生きていないものから、生きるものへと、「生きよ。増えよ。地に満ちよ」と、祝福されて始まっていたことを。

命の中には、原初から「共に生きる」意思がある。それは、愛とも、善とも、慈悲とも、私たちが良きものとするあらゆるものの名を与えられて、私たちの命の中に育まれてきた。これからも育まれ続けることだろう。その先に、「神の国」がある。

先取された「神の国」に、体のほんの一部でも押し込もうと生きている。そこでは、自分の命を愛おしむことが、他の命を犠牲にすることと矛盾しないで存在し、歓びだけを呼吸して生きていける。今は完全ではない。しかし「神の国はあなたの方の中にある」と宣言された方の言葉を信じて、ほんの少しだけでも「共に生きる」ことの中に滲み込んで生きたい。その歓びを与えられて、その歓びの中で息を吐き出したい。
 命の招きに答えつつ生きていきたい。

目次

- ・巻頭言
- 命の招きに答えたい 2
- 特集■ 切手運動ボランティア活動を紹介します。 3
- ・ケニア・シロアムプロジェクト 6
- ・ワーカーからの手紙（弓野綾、岩本直美） 8
- ・JOCSと私 10
- ・奨学生の横顔⑩／タンザニア・スタディツアーに行ってきました。 11
- ・地区JOCSから 12
- ・理事改選に伴うお願い／教会訪問プログラム／ご入会 13
- ・カンボジア出張報告 14
- ・イベント案内&お知らせ 15
- ・関西事務局パート職員募集／関西JOCSのつどい開催 16

JOCs® 使用済み切手運動で大活躍中! 切手運動ボランティア 活動を紹介します。

JOCsの使用済み切手運動は、日本全国から善意でご寄付いただいた使用済みの切手を、切手のコレクターさんや切手商に換金していただき、海外保健医療協力の資金として活用するものです。この運動は、50年以上前からボランティア活動として行われてきました。今号では、このボランティア活動に焦点を当ててご紹介します。この特集を通して、多くの方がJOCsの活動に興味をもってくださいること、そしてボランティアとしてJOCsに参加してくださることを、心からお待ちしております。



上・毎日、全国からたくさん
の使用済み切手が届きます
下・作業を進めるボランティ
アさんたち

JOCsの使用済み切手運動は、多くのボランティアの方々によって支えられています。切手をご寄付くださる皆様、封筒から消印済みの切手を切り取り、それをある程度の量を貯めて封筒や箱に入れ、JOCs事務局まで送ってくださることもボランティア活動です。切手を送ってくださるためには郵送料金がかかりますし、日ごろから郵便物の所在を気にして、封筒から切手を切り取る作業も必要になるでしょう。

それから切手コレクターの皆様も、切手の専門知識がないボランティアさんが袋や段ボールに詰めただけの使用済み切手を、中身を見ないで買ってくださっているのです。換金してくださったお金がJOCsの海外保健医療協力に使われていると知っているからこそ、コレクターの皆様は換金してくださっているのです。好きなものを買うことが役に立っていること、これは、現在NGOの世界でも一般的になったフェアドレードと似ている面があるのではないのでしょうか？

このように、使用済み切手運動は、その始まりから終わりまでボランティア精神なしには成り立ちません。「運動」と呼ばれるゆえんはここにある、と私は考えています。

事務局での切手ボランティア作業の中心は、毎日送られてくる切手を中心とした荷物を開封、整理分類し、コレクターの皆様に発送することですので、作業にはある程度の知識と経験が必要になります。このためJOCsのボランティアさんたちは、定期的かつ長期的に通ってこられる方が中心となっており、長い方は30年以上通ってくださっています。ベテランのボランティアさんに支えていただいている一方で、将来にわたってこの運動を続けていくためにも、新たにボランティア活動に加わってくださる方も必要です。ぜひ使用済み切手運動を通して国際協力活動に参加しませんか？

切手運動担当 山中信

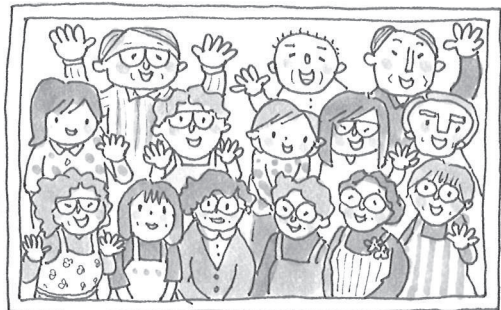
開封して、中身を
分類していきます。



JOCS 事務局には、毎日たくさんの
使用済み切手や外国コインなどが、
全国から送られてきます。



切手運動ボランティアの一日



たくさんのボランティアさんが
活動されています。

ボランティアの魅力や楽しみは？

「ボランティアをすることで、自分の心が満たされていることを実感しています。微力ながらも、世界の平和につながっていることが嬉しいです」(女性 60代)

「週1日來ることが自分のリズムにもなっています」(女性 70代)

「雑談の中から、自分の抱えている悩みを解決するためのヒントも得られました」(女性 70代)

「切手を送ってくださる人が大勢

いることを知り、感謝の気持ちでいっぱいになります」(女性 70代)

「楽しく気楽にやらせていただいで社会の役に立っているということが嬉しいです」(女性 60代)

「キリスト教について学ぶことが増え、心の安らぎを感じています」(女性 70代)

「送られてくる切手の貼り方や切り方が様々で、作業しながら楽しんでいきます」(女性 70代)

切手ボランティアを始めたきっかけは？

「切手を持ってきた時に、ボランティアしませんかと声をかけられました。あとで気づいたのですが、小中学生のころ、JOCSに切手を送っていました」(女性 60代)

「教会で使用済み切手を集めているのを知り、実際に作業をしているところでボランティアしてみたいと思いました」(女性 70代)

「通っている教会の牧師夫人に

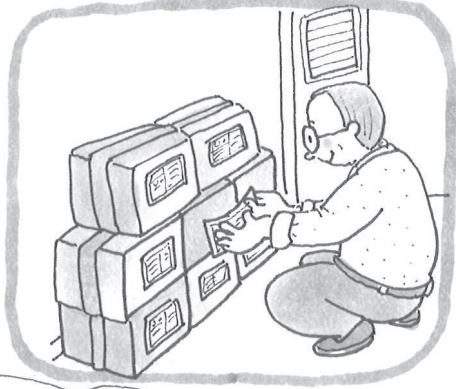
注 現在JOCSは、BCGを送る活動は行っていません。

『力仕事もあるようなので、お手伝いしてみたら』と勧められたのがきっかけです」(男性 70代)

「40年ほど前、『切手を集めてBCGをネパールに送ろう』という記事を新聞で見て(注)、切手を送り始めたのがJOCSを知ったきっかけです。2、3年前にそのことを思い出し、ボランティアに來ることにしました」(女性 70代)

JOCSには、東京事務局と関西事務局、2つの事務局があり、それぞれボランティアさんが切手整理作業に携わってくださっています。ボランティアさんたちのいろいろな声をお届けします！

使用済み切手をコレクターさんへ発送します。



コレクターさんへ発送できるように使用済み切手を箱や袋に詰めます。



※東京事務局での作業の様子です。一部、関西事務局では行っていない作業もあります。



コレクターさんは、使用済み切手の消印の地名・日にちや図柄を選んでコレクションしたり、貼り絵の材料にしたり、さまざまな方法で楽しんでいます。

切手を送ってくださった方の住所や名前を登録し、お礼のハガキを書きます。

いちいち
100通くらいあります!



お礼状が不要の場合は、「受領証不要」と封筒にお書きください。

以下のように切手運動ボランティアを募集しています。定員に達し次第締め切らせていただきます。事務局へお気軽にご連絡ください。

■東京事務局

曜日：月曜日または水曜日

作業時間：9時30分～14時（お昼休憩あり）

作業内容：切手の分類・整理、お礼状発送、コレクターさんへの発送作業、

応募条件：年齢・性別は問いませんが、ある程度の力仕事をお願いすることがあります。

交通費：ご希望の方に支給します。

■関西事務局

曜日：火曜日、木曜日、金曜日、第四土曜日

作業時間：9時30分～17時のうち好きな時間

作業内容：切手の分類・整理と梱包作業、お礼状発送作業

応募条件：東京事務局に準じます。

交通費：交通費支給をご希望の方で、一日3時間以上の作業を行ってくださった場合に交通費を支給します。

これからボランティアに来てくださる方へのメッセージをどうぞ！
「定期的に来てくださるとありがたいです」(男性 70代)
「やるべきことを、無理のない範囲でやっていきましょう」(女性 70代)
「ボランティア交流会などで、J OCSの職員やワーカーから現地での活動内容を直に聞く機会もありますので、お楽しみに！」(女性 70代)
「誰でも、みんなでできる仕事ですよ」(女性 70代)

関西事務局のボランティアさんは、1時間程で帰られる方もいれば、週に2回、1日中活動してくださる方も、1カ月に1回の方もいらっしゃると思います。一人ひとりがJ OCSにくださる大事な時間が、私たちの力になっています。
(関西事務局 渋谷)

東京事務局では、切手の整理作業開始前にコーヒープレイクがあります。「仕事がかどるように、チョコ&コーヒードでエネルギー補給」というこの習慣。ホントに効果あり！なのです。皆さんの見事な働きに感謝、感謝の日々です。
(東京事務局 飯田)

協働プロジェクト ケニア シロアム プロジェクト



シロアムの園で笑顔を見せるレスリー君とお母さん

シロアムの園は、障がいのある子どもたちやその家族をありのままに受け入れ、包括的・全人的なケアを提供するために、2014年からケニアの首都ナイロビ郊外で活動しています。JOCSIは、2016年4月からシロアムの園との協働プロジェクトを開始しました。シロアムの園の療育サービスを充実するため、5年間の計画で療育カリキュラムや教材づくり、スタッフの育成、療育記録の整備などを支援しています。

昨年11月には山内章子ワーカーがバングラデシュからケニアに飛び、理学療法スタッフの育成にあたりました。今年5月には子どもたちの生活・学習能力のアセスメント（評価）や個別指導計画の改善のため、障がい児教育に詳しい原田真帆さんに短期専門家としてご協力いただきました。それぞれの子にあった接し方や日々の活動の具体的な課題を示して話し合いを重ねたことで、スタッフの行動が変わってきています。7月には、作業療法士のバシリサ・ワマルワさんが研修のために来日しました。

シロアムの園代表の公文和子医師と日々相談し、皆様のご支援に支えられ、こうしたJOCSIらしい関わりが形になってきました。喜びや痛み、悲しみをも分かち合い、祈り、支え合う輪が広がっています。

子どもを大切にしたい理学療法を

バングラデシュ派遣ワーカー 山内章子

人の大切な存在であることを自然と学んでいます。

シロアムの園の朝は、スタッフが全員集まって聖書を読み、讃美歌をすることから始まります。ケニア人の湧き上がるような素晴らしい歌声は、朝の活力です。

しばらくすると子どもたちが送迎車で集まってきました。どのスタッフも、子どもとお母さんを大歓迎して迎え入れます。バングラデシュでもそうですが、障がいを持つている子どもたちが社会で

迎され、地域でその存在が尊重されるのは、とても難しいことです。お母さんたちは笑顔でやって来ますが、それぞれが毎日大変な闘いを持っていることはうかがい知れます。シロアムの園のスタッフは、一日のプログラムを通して子どもたちの存在を尊びながら寄り添い、プログラムを進めます。それを通してお母さんたちは、自分の子どもが「この世でたった一

この場所でもわたくしが理学療法士のムハンジさんやスタッフの皆に学んでもらいたかったことは、理学療法場面でも同じように、子どもたちが大切に体を触られるべき、ということでした。怖い訓練ではなく、リラックした心と体でお遊びをしていくと、もっと子どもたちが動けるようになることを見て学んでもらいました。

シロアムの園のスタッフはとても熱心に学びます。彼らがこれからももっと成長するようにわたしも応援していきたいと思っています。

国際保健医療勉強会 報告

シロアム・プロジェクトを事例として

JOCSでは、将来国際保健に携わりたいことを希望する方を対象に、年に数回、国際保健医療勉強会を開催しています。今年度の勉強会のテーマは「ケニア」です。来日中の公文医師、作業療法士のバシリサ・ワマルワさんを講師に迎え、7月に今年度第1回目の勉強会「ケニアの障がい児を取り巻く状況と作業療法士の活動」を東京、大阪で行いました。

「神のわざが現れる場」としてのシロアムの園の設立に至った思いを、聖書(ヨハネ・9章)から語った公文医師。公的支援からこぼれおちる人々に届きたい、経済成長期のケニア社会で誰を大切に、どのような社会を作っていくのかを問かける存在でありたい、とシロアムの園の使命や活動計画を紹介しました。バシリサさんは、ケニアにおける療法士の育成環境や技術レベルを説明し、「その画一的、制圧的なあり方に違和感を覚え、進路を祈り、シロアムの園に導かれた」と自己紹介。シロアムの園で経験した自身の内的変化も交えつつ、取り組みを披露しました。中でも今年3月に亡くなった重度心身障がい児のジェーンちゃんとお母さんの物語、寄り添ってきたスタッフたちの思いに、参加者からは「癒し、癒されることを深く考えさせられた」など多くの感想が寄せられました。質疑応答はケニアの社会や福祉行政、シロアムの園の実施体制など多方面にわたり、学びが広がりました。



公文医師(左)とバシリサさん

※今後の国際保健医療勉強会の予定を15ページに掲載しています。ご関心のある方はぜひお申し込みください。



療育活動を行う教育スタッフ



シロアムの園での原田さん

子どもたちの成長を願って

JOCS 短期専門家 原田真帆

シロアムの園では、主に3つの活動を行いました。1つ目は、見通しをもつ環境を作ることです。お子さんが活動に集中できるように、「今何をやる時間か」視覚的に伝える時間割を導入しました。顔写真を用いた出席確認の後、絵カードを提示し、その日の活動を確認します。また教材を箱に入れます。活動が終わるごとに箱を変えます。そうすることで次の行動の予測ができ安心して過ごせます。

2つ目に、お子さんの変化を小さいステップでみることを実践を交えながら伝えました。ほんのわずかな変化・成長を見逃さず喜びを分かち合うことが、お子さん、保護者、スタッフの励みになり、次の成長に繋がります。3つ目に、学習障がいがあるお子さんの評価表改訂を教育スタッフのエリアベスと一緒に取り組みました。彼女との共同作業として成果を形にできたのは嬉しいことです。

活動中は2つのことを意識しました。1点目は、何か提案する際はスタッフの意見を求めその意見を提案に反映させることです。2点目は、療育中の動画を撮りその素材を活用して説明を行い、映像を通してスタッフ自らが良い点や改善点に気づくよう促したことです。教育には「これができたら完璧」というものはありませんが、目の前のお子さんに愛情をもつことが最も大切なのだ、シロアムの園のスタッフのお子さんへのあたたかい眼差しを見てあらためて思いました。

ワーカーからの手紙

海外で活動するワーカーからの近況報告です。
今回は、タンザニアの弓野綾さんとバングラデシユの
岩本直美さんです。

技術と心を伝える

タンザニア派遣ワーカー

弓野綾

今年の4月から、慢性疾患外来を水曜と金曜の週2回に増やし病院の一般外来棟で開くようにし、また、病院と慢性疾患外来のカルテを共通にしています。外来の仕組みを病院職員全員に馴染みあるものにし、今後定着しやすくするためです。登録した慢性疾患患者さんは8月末で400人を超えました。

現場に技術を伝える方法の一つが再処方(リフィル)外来の導入です。これは、状態が安定し長く定期通院している患者さんに対しては、前回の受診時と同じ薬を、慢性疾患外来担当以外の医師が短時間で診察して処方できる仕組みです。もう一つが慢性疾患の診療

手引きです。誰が診療しても質がある程度保たれるよう、国のガイドライン等を参考にしてタボラで実行可能な診断と治療の方法を少しずつまとめ、それを医師全員に読んでもらい、出された意見を反映しながら作っています。

ある外来前の健康教室の後、患者さんが「再処方外来のときは今までかかっていた医師に診てもらえない」と不安を漏らしました。そのとき、一緒に慢性疾患外来を担当するフランスス医師が患者さんたちにこう言いました。「今月は目当ての医師にかかれなくて落ちないでください。私たちは再処方の方法を全ての医師に教えました。皆さんに心配があれば彼ら



病院の一角で患者さんたちに健康教育をするフランスス医師

が私たちに相談します。この仕組みは、慢性疾患の患者さんが増えてきて、また私たち担当医師が他の診療もあることで、皆さんが長く待たされて治療を続ける意欲をなくさないように、また全ての医師に皆さんの必要とする薬を処方する力をつけるために始めたのです。また来月も受診してください。治療継続を大切にする姿勢が現地のスタッフに伝わったと感じられ、私には嬉しい言葉でした。ザイナブさん(仮名)という50代の女性患者さんは、高血圧と心

臓の病気のために慢性疾患外来に通っています。彼女が時々胸痛を訴えるようになったので心電図検査等を受けてもらいましたが、異常はありませんでした。咳も増えたと報告してくれたのは再処方外来担当のマタタ医師です。もしやと、HIV感染症を調べた結果は陽性で、免疫力の低下が症状の原因の一つと疑われました。その日のうちにCTC(HIV感染症治療外来)に紹介しました。一カ月後、慢性疾患外来を再診した彼女の手にはCTCの受診券があり、抗ウイルス薬を始めたこと知らせてくれました。彼女は「私、気落ちしてはいないのよ。HIVの薬も、この外来でもらう薬と同じように毎日続ければ、調子が良くいられるでしょう?これからもことCTCに毎月受診するわよ。早く病気を見つけてくれてありがとう」と言いました。これからも、彼女が病気と、そして私たちと長く上手に付き合ってくれることを願っています。



電子
診療法士

ロージーさん、その後

バングラデシュ派遣ワーカー 岩本直美

ラルシユが催したイスラム教の犠牲祭の祝会に、ロージーさんが母親に伴われてやってきた。語り尽くせない物語の末に、彼女はバングラデシュ最大の国立精神病院に3カ月ほど入院し、現在は自宅で定期的な注射と内服治療を受けながら、母親と彼女の息子と共に暮らしている。彼女の状態は改善したものの、大勢の集会に集うのは時期尚早と、母親のみを招待していた。彼女の大仰なパフォーマンスに多くがたじろぎ、昼食の場が凍りつつあったため、結局ロージーさんとお母さんには別に場を設け、ゆったりと食事をしてもらった。

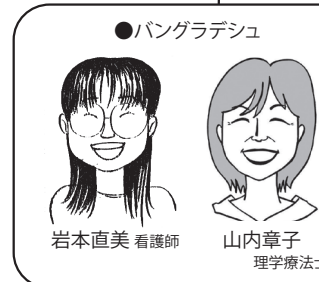
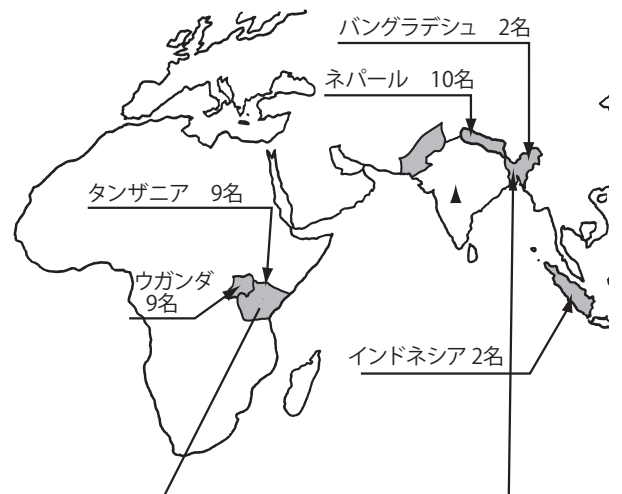
ロージーさんの様子を振り返るにつけ、私たちは彼女の今の状態は、病気が原因というより、環境的な要因が多くを占めているのではないかという思いを強くした。彼女の母親は「怖れ」から、今もロージーさんを裸で「座敷牢」に閉じ込めたままである。その一方

で寝間着を着せ、突然彼女を一人で外に連れ出したりする。病むロージーさんと病む母親、そして少し奇妙なロージーさんの息子と向き合いながら、押しやり引いたり私たちの付き合いが続いている。犠牲祭までは母親はアッラーにお捧げする牛のことで頭が一杯であつたため、私たちは、犠牲祭後ロージーさんの部屋を改善する予定にしていた。「座敷牢」の壁を取り壊し大きな窓を備え、電気と扇風機と寝具等を置くという、いわば普通の暮らしの風景である。しかしロージーさんの母親は「窓は不要、壁上部に取り付けられた採光柵で十分」と言い切る。自分の汚物にまみれた部屋で裸で食べ物を食らう娘の、部屋のリフォームを拒否する母親の苦しみを理解しようとする母の態度に私たちも苦しんでいる。

「私がサルマと二人きりの暮らしであつたとしたらどうだろう

(2017年9月現在)

JOCS派遣ワーカー・現在の奨学生数 (国名の後の数字)



か」と私は思い巡らしている。季節の変わり目には調子を崩し暴力的となる、知的な障がいと精神障がいのあるサルマとの暮らしが今まで続いてきたのは、コミュニティの暮らしの中で支えあい、互いに守られてきたからである。暮らしの場における公的支援が皆無であるバングラデシュでは、選択肢はほとんどない。(娘のいのちを守るために)鎖につながるか、そうでなければしばしば取っ組み合いとなり、家族は疲れ果てる。一度路上にさまよえば、家族のもとに帰れる機会は皆無に近い。もちろん真摯に治療とケアを続けている家族も多い。元校長だった誇り高いロージーさんの母親は、親戚知人にすぐることを良しとせず、

自分で処理解決しようとし頑丈な座敷牢にロージーさんを閉じ込めてしまった。

※2015年12・1月号に掲載したロージーさんのその後のストーリーです。なおロージーという名前は本名ではなく呼び名です。



岩本ワーカー (左) とサルマさん



JOCSと私

どんな人がJOCSに関わっているの？ JOCSとのつながりや思い出などを書いてもらうページです！今回は、教会としても個人としてもJOCSを支援くださっている上垣さんにお書きいただきました。

JOCSのモチーフに励まされて

上垣信子 (うえがき のぶこ 板橋大山教会牧師夫人)

銀行のワンゲル部にいた二〇代、書店で『ネパールの碧い空』や『山の上にある病院』が目に残りました。山に魅かれて読んだところ、内容は予期せぬものでした。「サンガイ・ジウネ・コラギ」(みんなで生きるために)。私には異次元の世界でした。以来、草の根で生きるJOCSの誠実な信仰に基づいたお働きに刺激されて今に至っています。

JOCSのこのモチーフは、燭台で灯が輝くごとく、暗い日本に連綿と一条の光を照らし、毎号の機関誌に励まされています。

1959年、岩村昇先生が日本キリスト者医科連盟の総会に初めて出席された時、分団で日野原重明先生が「ネパールへ医療奉仕に、特に公衆衛生医を求めている」と言われた一言が記憶に刻まれたと言います。召天された日野原先生の一言が、日本のNGOの先頭を牽引した岩村先生を押し出されたことにも神の導きを覚えたものです。

三十数年前、小林好美子さんがインドネシアに派遣された時、大学の誘いを辞退し、「戦責告白」を言葉だけのものとせず、平和な

社会実現のために赴かれた中にもこのモチーフを実感しました。

後に、入佐明美看護師が岩村先生を慕ってネパール行きを願った時、一旦OKされたのに、数年は釜ヶ崎で働くようにと言われ、躊躇しつつケースワーカーとして働き始められました。岩村先生はアジアの問題も釜ヶ崎のそれも優劣つけ難い喫緊の問題と捉えておられ、やがて入佐さんは釜ヶ崎こそ召命の地と確信されました。『ねえちゃん、ごころうさん』らの著書は平易な文章で書かれ、同情でなく共感しつつ草の根で人々と共に生きる姿勢は岩村先生と同じです。共に感じ、共に悩み、共に考え、相手に教わり、支えられ、自らの失敗を笑い、神様に委ねる道を歩かれました。

幼稚園長時代に、経営の論理でなく、子どもはもちろん、特に母親たちと教職員によく耳を傾けて聴くように努めました。うまくできたとはいえませんが、JOCSのお陰です。更に今年のJOCSフォーラム誌で小宅泰郎さんも紹介されたフィリピンの無名詩人の詩『Go to the people』。「民衆のところへ行き彼らの中で暮らし

彼らから学び／彼らを愛し／彼らが知っているものから出発し／彼らが持っているものの上に建てよ。しかし最高の指導者なら／自らの任務が完了し／自らの仕事が終わったとき／民衆たちに気づかせる。『わしらが自分でやりとげたんじゃ』と(岩村昇訳)。この詩も、日々を導いてくれました。

雪深い北陸の百名余の園での16年間、教師らが「自分でやりとげたんじゃ」と思えるようにと、導かれました。

去年、今の教会で証をしてくださった岩本直美さんから、バンゲラデシユの警察署長さんらが温かい援助をしてくださっていると聞き感銘を受けました。汚職や不正が多く用心が欠かせぬ国で、ラルシユの責任者として政府など公職者たちとも会う中で、正義を貫こうとしている人たちの存在に励まされているとのこと。聖書に「主の目はどこにも注がれている」とありますが、草の根での働きを支援する地元の人たちが確実に生まれているのは実に力強いことです。

JOCSのモチーフが時代と場所を越え今も生きていることに、感謝があふれます。

奨学生の横顔⑩

ネパール山間部に住む
貧しい人たちのために働きたい



ネパール
アーロン・スッバさん
HDCS
ラムジュン病院

私は今、臨床検査技師として働いています。私の住む村は都市部から離れた山間部にあります。住民の暮らしは貧しく、健康状態も良くありません。資格をもった臨床検査技師になり、地域の人たちのために働きたいという私の夢を、JOC Sの奨学金でかなえることができました。

研修を受けている時、試験勉強が大変だったり、実習がうまくいかなかったりして気持ちが落ち込むこともありましたが、しかしそんなとき、JOC Sから届いたクリスマスカードやメッセージ、JOC S奨学生の合格通知を見ると、会ったこともない自分に奨学金を支援してくれる日本の人たちがいると思いき、自分のことを支えてくれている人たちが遠い日本にいてることを感じるようになりました。そして、自分にはこの課題を

乗り越える力があると信じ、努力することができました。

2015年にネパールで起きた大地震の後、同級生の中には、家族や自宅が被害を受けて研修を続けられなくなった人もいました。そんな中でも経済的な心配をすることなく研修を続けることができたのは、JOC Sの奨学金のおかげです。ありがとうございます。

病院での仕事は覚えることも多く大変ですが、毎日とても充実しています。早く仕事を覚え、少しでも多く地域の人たちの役にたてるよう、病院が実施している巡回診療やコミュニティ活動にも参加していきたいと思っています。今後も私たちの活動、そして地域の人たちのために、お祈りとご支援をよろしくお願いいたします。



病院の検査室で働くアーロンさん

タンザニアスタディツアーに行ってきました!

2017年9月9日~17日



昨年のタンザニアスタディツアーの様子

JOC Sでは、将来、JOC Sのワーカーをはじめ国際保健医療協力活動に携わることを希望する人を対象に、様々なプログラムを実施しています。

昨年度に続き、今年もタンザニアへのスタディツアーを企画し、医師や看護師、医療職を目指す学生など、定員を超える方々にお申し込みいただきました。

8月19日(土)、ツアー参加者に東京事務局に集合していただき、事前勉強会を行いました。勉強会では、タンザニアでのJOC Sの活動について、タンザニア・タポラ州の概況、ツアーについて説明を行いました。参加者からはタポラの病院事情、ツアー中に気をつけるべきことなどについて、たくさん質問が出されました。

9月におこなわれたツアーでは、弓野綾ワーカーの働く聖アンナ・ミッション病院を視察し、活動体験も行いました。病院視察や活動体験では、JOC Sの奨学金で保健医療従事者になった病院スタッフが、自分の仕事や働く病棟などについて説明してくれました。ほか、州立病院や地方の診療所なども訪問しました。またツアー最終日には、JOC Sの元奨学生や病院スタッフとの交流会を行いました。本誌12・1月号で、ツアー参加者の感想などを紹介する予定です。

これからもJOC Sではこのようなプログラムを実施します。将来、国際保健医療協力に携わりたいと思っ方、ぜひご参加ください。



地元のJOCSから

●**仙台JOCS** 切手整理作業「きつてきつぺ」を毎月第2土曜14〜16時に仙台市市民活動サポートセンターで実施しています。8月は9名の参加でした。

●**足利JOCS** 9月16日(土)足利市民クリスマスのためのミーティング2回目を行いました。今年も楽しいイベントになるよう準備していきます。

●**町田JOCS** 8月にはJOCSの母体であるJCM A(日本キリスト者医科連盟)第69回総会が「支える、寄り添う、背負う」をテーマに大阪で開催されました。様々な職種キリスト者医療従事者、学生が大きな力を与えられて現場に戻りました。町田JOCSも夏休み明け、9月から再始動です。「支える、寄り添う、背負う」気持ちで切手ヨキチヨキを続けます。

●**京都JOCS** 7月28日(金)に京都市民ホールアルティで開催された第39回京都JOCS

Sチャリティーコンサートは、300名以上の来場者があり、大盛況のうちに終了しました。中田麦さんによるマリンバと崔理英さんによるピアノは、マリンバの大胆さとピアノの繊細さが曲によってバランスよく見事に絡み合い、すばらしい演奏会となりました。

●**大阪JOCS** 7月7日(金)に開催した「大阪JOCSカフェ」では、30名以上のお客様と共に、おいしいカレーを食べながら「いのち」について船戸正久さん(医師)からお話を聴きました。ほんわかした雰囲気、多くの方が「居心地の良かったです」。次回は12月16日(土)に大阪聖パウロ教会にてチャリティーコンサートを開催の予定です。土橋薫さんのオルガンと共に歌を楽しむ会にしたいと企画中です。

●**芦屋JOCS** 9月17日(日)に芦屋聖マルコ教会にて、委員会を開催しました。6月18日(日)に開催したつどいの反省

と委員長の交代がありました。長い間委員長を引き受けてくださった加輪上敏彦さんに代わり、小野勝さんが委員長として委員会を引っ張っていただくことになる予定です。

●**神戸JOCS** 11月18日(土)14時から、日本キリスト教団兵庫本通教会で神戸JOCSのつどいを開催します。講師は船戸正久さん(医師)です。今回は「小さいのち、大きな希望」子育て中のお母さんに聞いていただきたいこと」をテーマにお話をお聴きする予定です。ぜひ、どなたでもお越しください。

●**四国高知JOCS** 11月26日(日)に日本キリスト教団高知教会で植松功さん(JOCS理事)を講師に迎えてつどいを行います。このイベントについて、9月9日(土)に高知教会にて例会を行い、チラシや当日のスケジュールなどについて話し合いました。つどい翌日の27日(月)には日本キリスト教団高知教会を会場にテゼのつどいを開催することが決まりました。

お問い合わせはJOCSの各事務局へ
 東京事務局へ：仙台・足利・町田JOCS
 関西事務局へ：大阪・京都・芦屋・神戸・
 四国高知JOCS
 (電話番号は16ページをご覧ください)



大阪JOCSカフェ



京都JOCSチャリティーコンサート

理事改選に伴うお願い

JOCsの理事は2年毎に定時社員総会で選任されます。このたび、2018年度から2019年度までの理事候補を選出する選挙を行います。つきましては、理事としてJOCsの運営に携わってくださる社員の方をご推薦ください。よろしくお願いいたします。

●改選までの流れ

- ① 役員推薦委員会にて、皆様からご推薦いただいた方を参考として、理事定数(10名)の2倍から3倍の推薦名簿を作成する。名簿には、被推薦者の氏名、性別、年代、職業、居住地域、JOCsとの関わりなどを記載する。
 - ② 全社員会員に名簿と投票用紙を送付。
 - ③ 社員会員は名簿を参考に投票。
 - ④ 投票結果の上位4名と、理事会・会長推薦6名、合計10名を理事候補者として選出。
 - ⑤ 理事候補者は2018年6月に開催される総会の承認を得て選任(「JOCs役員選出規程」より)。
- 理事選出にあたり、可能な限り

多様な職種・性別の推薦名簿を作りたいと考えております。皆様ご高配の上、理事にふさわしい社員会員のご推薦をよろしくお願ひ申し上げます。ご推薦くださる場合は、11月16日(木)までに、被推薦者の氏名・住所・職業を、郵送、FAXまたはメールにて東京事務局までご連絡ください。お問い合わせ…東京事務局

役員の報酬について 当会の役員(理事及び監事)の報酬等については、社員総会で決議した「役員の報酬等及び費用に関する規程」で定めています。概要は次のとおりです。

<報酬等>役員は、無報酬とする。

<会議出席>役員が社員総会、理事会、委員会等の会議に出席するときは、次の費用を支給する。日当は支給しない。

往復交通費の実費。ただし、社員総会及び理事会出席時は3,000円を超える部分を支給し、3,000円以下の場合には支給しない。委員会出席時は1,000円を超える部分を支給し、1,000円以下の場合には支給しない。

<出張費>役員が出張するときは、次の費用を支給する。

往復交通費の実費、職員の出張旅費規程の額を上限(出張地による)とする宿泊費の実費、日当(1日あたり3,000円)。

教会訪問プログラム

JOCsスタッフがあなたの教会を訪問して、活動の様子を報告します。

JOCsスタッフが活動の様子を報告します。派遣されているワーカーの働きや、共に活動する現地の人々、JOCs奨学生の働きなど、皆様のご希望に合わせてお話しします。ぜひ、集会や婦人会などでお話しする機会を設けてください。一緒に活動を支えてくださる仲間が増えることで、アジア・アフリカで、一人でも多くの人の健康といのちをまもることができます。

交通費・謝礼の必要はございません。当日、献金をいただいた場合は、JOCsの海外の保健医療協力活動のために用いさせていただきます。

お問い合わせ・お申し込み：
東京事務局(森田真実子)
TEL: 03-3208-2416 FAX: 03-3232-6922
E-mail: kaiin@jocs.or.jp

今号の数字

会員状況
(8月末現在)

- 会員数 3780名
- 7~8月 入会者数 18名

使用済み切手
運動協力状況

- 7~8月分 協力件数 2689件
- 受託量 166箱 1箱7.5キロ

ご入会 ありがとうございます

(7~8月)

北海道/山田君江 千葉県/山崎克子、上浦和子、八木沼千佳子、八木沼豊、中西昭満、水谷勤・育子 東京都/本多峰子、小野広美、谷津楨子 神奈川県/原田恵子、鈴木尚子 長野県/坂巻隆男 愛知県/野間光彦 大阪府/丸山美紀 兵庫県/堀光世 福岡県/田中道子、匿名 (敬称略)

カンボジア出張報告

初・カンボジア
初・海外出張
初・協働プロジェクトを体感

東京事務局 河井敦



「河井さんさ、カンボジア行ってきてくれない？」

JOC Sに入局して間もなく事務局長に言われた。毎日緊張と不安の只中だった(今も)新米職員は、はじめ事態がみ込めず、事務局の近くにアジア料理のお店が何かできてお昼を買い出しに行くのかと思った。聞くと、写真でしか見たことがなかったカンボジアの「SALTプロジェクト」のモニタリング出張だ。ええ、絶対行きますとも！JOC Sのメイン事業のひとつをこの目で見られる。

すぐに予防接種と危機管理講習が慌ただしく始まる。狂犬病、A型肝炎、破傷風。それぞれ注射を数回に分けて日を置いて打っている。カンボジアは行ったことがない。こちらをじっと見つめる野良犬、お腹を下す水、切り傷から入り込む菌。腕に入り込む注射針を見つめながら、そんなことが頭をよぎ

る。海外渡航者のための危機管理講習では、夜、ホテルの部屋に強盗が来たらどうすべきかなど指導を受ける。注射を打った医療のプログラムも危機管理のプログラムも同じことを言った。「こういうリスクが多い

海外が特別なわけじゃないんです。日本という国が特殊なんです。」あまりに清潔で奇跡的に治安が良い中で、無菌のビニールハウスでぬくぬく育ったようなモヤシが、ちよつと外に出るとお腹を壊し財布をスられる。そういうことらしい。

事務局長からも渡航前の安全指導がなされ、最後にモヤシはこう言い渡された。「広報の仕事の一环として、動画の素材、できるだけ撮ってきてよ。写真も。現地出張の様子をできるだけネットから発信してみて。」

かくしてモヤシはビデオカメラと三脚を手に、海外事業担当の職員と一緒にカンボジアへ。仕事で

無菌の国を出るのは初めてだ。

プノンペンから北へ300キロのバットアンバン州へ。JOC Sとバットアンバン司教区が協力して小・中学校を巡回し、歯の磨き方の指導から思春期教育まで行っているのがSALTプロジェクトだ。滞在中、小学校を3校訪問できた。授業を固定カメラで撮るだけでは面白くない。教室の壁に貼ってあるカンボジア国王の写真、蚊の写真とともに感染症リスクについて説明が書かれた教科書のページ、授業を進める現地の先生の横顔。角度を変え、ズームして、撮れるだけ撮る。子どもたちが時々おし声をそろえて読み上げる教科書にズームしたとき、自分が東京の事務所まで日に何度となく目にするJOC Sのロゴが印刷されていることに気づく。そのとき自分が東京で四苦八苦しながら取り組み始めた仕事と目の前の授業が繋がった。

子どもたちの表情を撮っていて、あくびをして眠そうな子や教科書を忘れて隣の子に見せてもらっている子が多いことに気づいた。授業のあと校長先生に聞いた。ある程度の年齢になると、村の働

き手として大多数が隣のタイに出稼ぎに出て家族を支える。両親が出稼ぎに出ている間、子どもたちは祖父母に預けられる。眠そうな目は、幼い兄弟姉妹の世話をしているからかもしれない。カメラでは、そこまでの事情や学校に來られない子までは当然だが映し出せない。数日間の滞在で自分ができることの限界と無力さを感じながら、毎晩、宿に帰ってその日に撮った動画を編集してフェイスブックやツイッターから発信した。

9割の国民が仏教徒の国で、JOC Sとバットアンバン司教区は人々と「みんなで生きよう」としていた。世界情勢をみると平和な世界は本当に創れるのかと時々絶望しそうになる。そういうときは、あの子たちのあくびや学校にいなかった子たちを、東京のモヤシは思い出すようにしている。



JOC Sのロゴの入った教科書を手(フダオン小学校にて)

※河井職員が撮った動画はYouTubeで公開中です。JOC Sホームページからどうぞ。

イベント案内

& お知らせ

国際保健医療勉強会 (東京事務局)

■2017年10月13日 (金)

「ケニアの障がい児への療育支援」

講師：原田真帆JOCS短期専門家

※本誌のお届けが勉強会に間に合わない場合は、ご容赦ください。

■2018年1月19日 (金)

「障がいのある人を取り囲む環境と理学療法士の育成について:バングラデシュとケニアの事例より」

講師：山内章子ワーカー

■2018年3月9日 (金)

「国際協力とプロジェクトマネジメント」

講師：森田隆 (JOCS事務局長)

時間：18時30分～20時30分

※勉強会終了後 (20時30分～21時)、希望があればワーカー志願者向けキャリア相談会を実施します。

場所：JOCS事務局またはキリスト教会館4階会議室

参加費：500円

定員：20名 (先着順)

お申し込み・お問い合わせ：東京事務局 (松浦)

E-mail：seminar@jocs.or.jp

JOCS オープンサタデー (関西事務局)

毎月第4土曜日に関西事務局で勉強会を開催しています。勉強会といっても堅苦しいものではなくて、一緒に考え、参加して発言する集まりです。ぜひお越しください。

※事前にお申し込みください。

■10月28日 (土)

「日本各地のキリシタン殉難地を訪ねて」

講師：林律氏 (医師)

日本にキリスト教が伝えられたころ、たくさんの方々が殺されました。この人たちの純朴な信仰生活と死にざまは、私たちの胸を打たずにおきません。その地域は全国にわたります。十数年に渉って各地の殉教の後を辿った報告です。

■11月25日 (土)

「JOCS協働プロジェクトとは？」

講師：森田隆 (JOCS事務局長)

現在、カンボジアとケニアで行われている協働プロジェクトについて詳しく説明します。このプロジェクトは、現地の団体と相談し、計画を立て、一緒に活動するJOCSの新しい形の国際保健医療協力です。これまでの活動成果も含め、わかりやすくお伝えします。

12月は、第4土曜日が祝日のためお休みです。

時間：14時～16時

場所：JOCS関西事務局

参加費：500円 (資料代・お茶代など)

お申し込み・お問い合わせ：関西事務局

JOCSの動き

東京事務局…〈東京〉
関西事務局…〈関西〉

29日(金)	25日(月)	16日(土)	16日(土)	9日(土)	9日(土)	26日(日)	25日(土)	18日(土)	9日(木)	3日(金)	1日(水)	28日(土)	23日(月)	23日(月)	21日(土)	20日(金)	18日(水)	17日(火)	14日(土)	13日(金)	11日(水)	4日(水)	3日(火)	1日(日)		
事務局長クリスマス休暇 1月4日(木) 事務局年末年始休暇	奨学金委員会(東京)	大阪JOCSチャリティコンサート (大阪聖パウロ教会)	民プラザ	第37回足利市民クリスマス(足利市)	オープンオフィスデー(関西)	四国高知JOCSのつどい(高知教会)	オープンオフィスデー(関西)	神戸JOCSのつどい(兵庫松本通)	役員推薦委員会(東京)	定例理事会(東京)	看護チーム訪問ケア活動(釜石市)	松浦由佳子職員ケニア出張	5カ年計画2018検討委員会(東京)	11月21日(火) 山内章子ワーカーケニアに派遣	森田隆事務局長、松浦由佳子職員カンボジア出張	高知スタンブッシュ(イオン高知)	高知スタンブッシュ(イオン高知)	町田JOCS定例会(メデイカルホームグラニー玉川学園にて毎月第3水曜日に開催)	町田JOCS定例会(メデイカルホームグラニー玉川学園にて毎月第3水曜日に開催)	市民活動サポートセンターにて毎月第2土曜日に開催	仙台JOCSきってきっぺ(仙台市)	国際保健医療勉強会(東京)	国際保健医療協力フィールドセミナー(台東区山谷地域)	服部由起職員インドネシア出張	グローバルフェスタJAPAN(お台場センタープロムナード)に出展	森田隆事務局長タンザニア出張

関西事務局のパート職員を募集します

大阪・梅田にある JOCS 関西事務局で、一緒に働いてくださるパート職員 1 名を募集します。
応募条件は次の通りです。

- ・週 3 ～ 4 日。9:30 ～ 17:30 勤務（休憩時間：1 時間）（応相談）
- ・企業または団体で 1 年以上の勤務経験（事務系）がある
- ・パソコンを使える（ワード・エクセル等）
- ・関西圏在住の方
- ・クリスチャンまたはキリスト教に理解のある方
- ・応募メ切：2017 年 11 月 21 日（火）必着。
- ・書類審査の上、2017 年 12 月 9 日（土）に面接、1 月 9 日（火）より勤務していただく予定です。

業務内容、応募手続き、その他詳細については、募集要項（JOCS のホームページに掲載）をご覧ください。
ご不明な点は、関西事務局・渋谷までお問い合わせ下さい。

＜お問い合わせ先＞ JOCS 関西事務局 TEL 06-6359-7277
担当：渋谷 E-mail：shibue@jocs.or.jp

関西 JOCS のつどい 開催

2018年2月24日(土) カトリック大阪梅田教会にて開催します！

来年2月24日（土）午後2時より「関西JOCSのつどい2018」を開催します。
今回は、山口県にあるカトリック宇部教会主任司祭の片柳弘史神父を講師にお迎えして、マザー・テレサの言葉の中から、JOCSが大事にしている「みんなで生きる」について共に考えたいと思っています。
開催場所は、JOCS関西事務局から

程近い、カトリック大阪梅田教会（サクラ ファミリア）です。カトリック北野教会が名称を変更して、2011年に改築されました。梅田の高層ビル立ち並ぶエリアにあり、とても近代的で素敵な建物です。3階にある聖堂もすばらしく、一見の価値あり、です。
詳細は追ってご案内いたします。ぜひ今からご予約ください。



公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会 <http://www.jocs.or.jp>

- 東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-51
電話：03-3208-2416 FAX：03-3232-6922
- 関西事務局 〒530-0013 大阪市北区茶屋町2-30
電話：06-6359-7277 FAX：06-6359-7278
- E-mail info@jocs.or.jp
- 編集発行人 代表者 畑野研太郎
- 編集長 森田隆（JOCS事務局長）
- イラスト 石橋えり子 柏木牧子
- 誌代 1部300円(送料込)
JOCS会員は会費の中に本誌購読料が含まれています。
また年間1万円以上（購読料含む）の寄付をしてくださった方にお送りします。
- 郵便振替口座番号 00170-1-20920

事務局便り

運動、読書、芸術そして味覚にと、身体も感性もフル回転の秋が到来しました。皆様いかがお過ごしでしょうか。私たち事務局職員は、航空賃が高い夏は海外出張に出ず、交代で夏休みをいただきましました。充電を終え、これから年度末まで、ワーカー、奨学生、協働プロジェクトの関係者に会いに各地にでかけます。職員全員が揃う日も少なくなりますが、インターネットで仕事が進むのがこの時代の良さ。でも秋の夜長には思いを巡らし、のんびり手書きでお便りをしたためたくくなります。（松浦）